



慶應義塾大学ビジネス・スクール

中外製薬で見る IFRS 財務諸表

5

初めに

本ケースは、2013 年から国際財務報告基準（IFRS）を適用している中外製薬の財務諸表とともに、会計方針とビジネスモデルについて分析を行うものである。

10

中外製薬は、2016 年度売上高でいうと、日本の製薬会社で 6 位である。2001 年よりスイスの大手製薬会社のロッシュとアライアンスを議決し、ロッシュは 2018 年 7 月現在中外製薬の 59.89% 発行済株式を保有している。

IFRS は、国際会計基準審議会（IASB）という、ロンドンにある独立な会計基準設定団体によって設定されており、世界中、多くの上場企業に適用されている。日本では、IFRS の適用が任意であるため、すべての上場企業を適用しているわけではないが、大手の多国籍企業の中で IFRS 導入する事例が増えつつあり、現在 150 社ぐらいある。製薬、商社、IT、大手のメーカーは IFRS 適用事例が集中する業界である。また、グローバル化を積極的に、M&A を積極的に進める戦略も多くの IFRS 企業で見られる 2 つの戦略である。

15

中外製薬の親会社のロッシュ社は、スイスにあるため 2005 年より IFRS を適用していた。当時、中外製薬は親会社の連結決算の作成のために IFRS への調整がグループ内に行われていた。2012 年 12 月に IFRS 適用を発表したときは、以下のように説明した。

20

「中外製薬グループは国内外において革新的な新薬を提供することを目指し、国外においても医薬品の販売や研究開発活動を実施し、また医薬品バルクの輸出入を行うなど、国際的な事業活動を継続的に行ってまいりました。また、ロシュグループの一員として、国際的な認知度も飛躍的に上昇し、国内外において幅広い株主の皆さまのご支援を頂くに至っております。こうした状況を踏まえ、投資家の皆さまの利便性の観点から財務情報の国際的な比較可能性の向上を図るべく、今般 IFRS の任意適用

25

本ケースは、学習院大学国際社会科学部准教授 ガルシア・クレマンスがクラス討議の資料として作成した。ケース記載のすべての内容は公表情報にもとづいている。

30

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

Copyright © ガルシア・クレマンス (2018 年 7 月作成)